

アジア競技大会を活用した地域活性化ビジョンに係る有識者会議 第2回会議 議事録

日 時 平成 30 年 10 月 5 日 (金) 10 : 30 ~ 12 : 00

場 所 アイリス愛知 コスモス 1・2

参加者 【委員】

昇秀樹 委員 (座長)、田中豊 委員 (代理 : 大竹ユニット長)、森浩英 委員、
來田享子 委員、松下浩二 委員、川原三男 委員 (吉田沙保里 委員は欠席)

配布資料 アジア競技大会を活用した地域活性化ビジョン中間案

1 あいさつ (初出席委員の自己紹介)

松下委員 ・ 現在は、10 月 24 日に開幕する卓球の T リーグに携わっている。T リーグは J リーグやリーグの様にピラミッドの頂点にあり、卓球の約 70 万人の競技人口を統括するドイツのブンデスリーガ型のリーグである。

・ 私は豊橋市の出身であり、愛知県出身として協力できればと思い、委員を受けさせていただいた。

・ 何ができるかはわからないが、皆さんと一緒に 2026 年のアジア競技大会を盛り上げられるよう頑張っていきたいので、よろしくお願ひしたい。

大竹代理 ・ 委員である理事の田中が所用で出席できないため、代理で出席している。

・ 企画調整部に所属し、アジア競技大会の他、来年度のラグビーワールドカップなどスポーツ全般の窓口をしている。

・ 皆さんと一緒に頑張っていきたいので、よろしくお願ひしたい。

2 議題

(1) 地域活性化ビジョン中間案について

・ 事務局より、「地域活性化ビジョン中間案」について、配布資料をもとに説明を実施。

來田委員 ・ 前回から細かく見直していただき、また、実際に進んでいる事業なども記載されわかりやすくなった。

・ 「アジア競技大会の説明とコンセプト」の 2 つ目の最後の行で「いかなる種別の差別をなくすこと」は日本語として不自然であり、「あらゆる形態の差別をなくす」という表現にした方がよいと思う。

・ その 2 つ下の「愛知県及び名古屋市では、簡素で質素な、そして機能的で合理的な」の表現はいいが、順序を入れ替えた方がよいと思う。「機能性と合理性を徹底して追求することによって、簡素で質素な」とした方が、スポーツのコンセプトにあっていると思う。トップアスリートのプレーは機能的で合理的で、それ自体が美しい。その美のなかに共通性があることを、運動学の先生も言っているので、「スポーツを通してそうした美を追求する」とするコンセプトにすると、お金をなんとかして減らそうとしているという感がなくなり、よくなる

と思う。

- ・「スポーツの力を活かす」という視点1の部分については、従来いわれている「健康」や「国や地域の誇りと連帯感」だけでなく、「国際スポーツ大会を開くということにより引き出すことができる多様な力」に着目する必要があるため、「国際的な友好親善」というのは、「誇り・連帯感の醸成にとどまらず」の後ろに持っていった方がよい。
 - ・視点1の「多様な力を備えている」という部分が、曖昧で読む側に丸投げの状態になっているので、我々がどういうビジョンを考えているのか透けて見える程度に4つの柱の中に反映させられるように議論した方がよい。
 - ・柱1「スポーツで愛知をブランディングする」において、何をどう「ブランディング」するのかがはっきり提示がされていない。例えば、4つの柱のいろいろな事業について達成指標を考えた時、メダルの獲得数やその後のオリンピック選手輩出数という指標しか出せない可能性がある。ビジョンに対する効果を想定した上で指標を提示する必要があるが、今のスポーツ界が求めているのはメダル獲得数や選手数といった指標ではなく、例えばセカンドキャリア支援としてアスナビを取り上げているが、選手一人ひとりの20年後を見据えた育成という視点を愛知県が持っている、選手の活躍を大会で見られるだけでなく、選手がどんな人生を送ることができるかを考えるビジョンになるように文言を調整した方がよい。JOCではミュージアムを作る予定であり、そこには選手やクーベルタンの名言を石版に彫ることを検討しているが、活躍している選手の言葉はインパクトは与えるが、あえてそれはやめようとなっている。それは、オリンピズムの精神では、その選手がどんな生き方をして亡くなったかまでを見て初めてその哲学が完成するということからである。オリンピックに出場した選手が社会貢献活動をする中でミュージアムの案内係になり、今日の自分が語れる言葉をホワイトボードなどに書いて来場者と語り合えるようにする、そうすることで選手も自分の人生を確認できるという提案があり、素晴らしいと思った。そうした短期的ではない視点で育成を考えるような文言が入っているとよいと思う。
 - ・観光については、エビデンスとして観光客数とならざるを得ないが、観光客数を上げたらどうなるかという点がない。例えば、今の観光計画における事業や取組が直接的に影響を与える部分だけではなく、二次的効果を与えることができるのは、愛知県の政策でどの領域かということを検討して欲しい。インバウンド客が来ることで県内は活性化するが、その先に将来は「人々の暮らしがよくなる」「誰もが住みやすいまちになる」といった二次的な指標を設けて効果検証するという事も検討して欲しい。
- 事務局
- ・成果指標については、次回の有識者会議で示す予定の最終案で、指標案を示せるようにしていきたい。
 - ・アスリートの20年後を見据えた取組について今考えているのは、活躍する大学

生の選手が、卒業後も企業に就職して競技を続け、引退後も地元に残って企業で働きながら後進の育成をして欲しい。愛知県では一流のコーチを確保できないという課題もあるので、一流選手が地元企業に就職することで、コーチ人材を確保して選手を育成し、それが循環するような取組をしていきたい。

昇 座 長 ・ ライフサイクルを示すことができれば、中学生、高校生、大学生のアスリートには、これまでとは違う新しいタイプの人生が示されるようになる。そうしたことを考えると、定量的な目標が望ましい、定性的になる事もあるが、2026年のアジア競技大会は中間目標、最終目標は2030年代としたわかりやすい目標を示すことができると、実現するための施策がもう少し変わってくる可能性もあると思う。

松下委員 ・ 数値的な部分の落としどころについては明確にして、何をもって成功なのかをはっきりさせた方がよい。2026年が終わって2030年になり、愛知県、日本、アジアの人の感情的、精神的な満足度とともに、インバウンドやスポーツ産業やセカンドキャリアなど、ビジョンに書かれている多くのことについて数字として出していき、ただ単にメダルをとるだけではなく、やってきたことについて結果を検証しないとイケないと思う。

・ スポーツ選手は1番が好きなので、2026年は今までのアジア競技大会にない新しいものに取り組んで欲しいと思う。例えば、今までのパラ大会は、健常者の大会の後に開催されており、これは運営面で大変だからだと思うが、私はパラは同じ競技の違う種目であるとはかといってなく、卓球であればシングルス、ダブルス、ミックスダブルス、団体の後に障害者の種目があるという認識でしかない。オリ、パラと大会を分けてやるのではなく、アジア競技大会の中で同じスポーツとして捉えられるようになればよい。現在のやり方だと健常者と障害者が大会が分かれており、接する機会もないので、もっと距離を縮めて、壁や隔たりなくできる大会にしていくとよい。

・ イノベーションや日本の最先端技術は使うべきだと思う。卓球でも最近ではデータ解析が進んでおり、カメラが2台あれば選手がどこにどのように打っているかが瞬時にわかるようになっている。ボールの速さや回転量などもわかるようになれば、勝利に結びつき、スポーツだけではなく産業にも貢献すると思う。テクノロジーとスポーツを結び付けた技術を2026年のアジア競技大会で初めてお披露目できるといいと思う。

・ 育成について、コーチがいないという点に対しては本気度を出すべきであり、中途半端にやるべきではない。1番を目指すのであれば、世界一のコーチやプレイヤーを呼ぶ、練習環境も1番よいものを整えるなど、妥協せず、徹底したやった方がよい。

・ 愛知県内の市町村において、「この市はこのスポーツ」というものを位置づけて活性化させるということができればいい。プロリーグはどうしても地域が偏ってしまう、バスケットの三遠は豊橋や浜松でやっているが、名古屋近辺に集まってし

もう傾向にあるのでそれを分散させる、例えば卓球は刈谷、安城、岡崎を拠点にする、バレーボールは新城に行ってもらうなど、それぞれの地域で核になるスポーツをつくってやっていければいい。名古屋だけではなくいろいろな地域が盛り上がることであればよいと思う。

昇 座 長 ・市町村別か学校別で、スポーツか国のマトリクスをつくる。アジア競技大会とパラ競技大会の融合は、規約上はわからないが可能なのか、可能でないのなら練習だけでも一緒にするということはできないのだろうか。

事 務 局 ・アジア競技大会とアジアパラ競技大会は主催者が異なる。オリンピックではパラリンピックを必ず同じ場所で開催することになっており、同じ組織委員会が運営しているが、アジア競技大会ではまだそのようになっていない。アジア競技大会を主催するOCAとアジアパラを主催するAPCの連携関係ができていない状況である。今回のジャカルタもその前の仁川でも、結果的には同じ都市で1、2か月後に開催されたが、必ずしも同じ都市でやるとはなっていない。

・eスポーツの関係者と会う機会があったが、eスポーツは健常者と障害者が一緒にできるスポーツということをアピールポイントとしているのが印象的であった。

來田委員 ・愛知県はアジアパラ競技大会を招致しない方向なのか。招致しないということでも、エキシビションとしていくつかのパラ種目を組み込むことは可能性があると思う。

事 務 局 ・アジアパラ競技大会の招致についてはまだ決めていない。次のアジア競技大会の杭州でも、そこでアジアパラ競技大会を実施するかどうかが最近固まってきたという状況である。私たちも情報収集はしているが、開催の可否の判断はまだしていない。

川原委員 ・ビジョンを県民に示す時に、図にしたりビジュアルで示すことは考えているか。視点が4つあり、その下に4つの柱があるが、アジア競技大会の開催がメインにあることは間違いないが、それに付随するレガシー的なものとは何か、レガシーを残すためにアジア競技大会までに何をするか、終わった後に何が残るのか、ここも図に落とし込めるとよく見えると思う。

事 務 局 ・ビジョンはできるだけわかりやすくしたいと考えており、どこかの段階では示したい。

・レガシーでどういったものを残すのかについては、成果指標や定性的なもので示すことを考えている。地域活性化の取組は、大会前に行うこと、大会中に行うこと、大会後に行うことの3つの段階があり、それぞれの段階でやることを整理し、それを図や表などできるだけわかりやすい形で工夫していきたい。

昇 座 長 ・広島アジア競技大会では新交通システム、1964年の東京オリンピックでは高速道路や地下鉄ができるなど、20世紀型のイベントではインフラ整備が進み、それは日本が発展途上国から先進国に追い付くということで意味があった。しかし、21世紀のこれからのイベントで新たに鉄道や道路を造るとするのは県民の理解が

難しいので、何をレガシーとするか。ロンドンオリンピックでは問題のある場所に新しい街を開発し、世界の都市ランキングでロンドンがニューヨークを逆転したという意味で成功したといえる。今回はインフラ整備に頼れないので難しいところはあるが、アジア競技大会前にやること、大会中にやること、大会が終わってやることを考える。理想論を言えば、愛知県民の心をひとつにしてこうした愛知をつくろうというイメージがあり、その中間にアジア競技大会を位置づける。2020年の東京オリンピックではレガシーばかり言っているので、アジア競技大会でも聞かれると思うが、アジア競技大会のレガシーとは何かをキーワードなどでわかりやすくしておく必要があると思う。例えば、障害者と種目を続けてやる、練習を一緒にするなどこれまでのアジア競技大会にはないことをやる、バリアフリーのまちをつくる象徴としてアジア競技大会を行うということになると、これもレガシーになると思う。このようなソフトな目標をレガシーとして示せるとよい。

- 森 委員
- ・8年後の2026年がどんな世の中になっているかを想定しないといけない。視点4でリニア開業の1年前とあるが、昨日もトヨタとソフトバンクの話があったが、情報技術などは加速度的に進んでいる。8年後は社会も産業も次の世代に向けて加速している時期に開催されることになるので、そこを見据えた時にこの視点や中身でよいのかをもう少し考えていく必要があると思う。「先端技術の駆使」とあるがこれは大切な視点であり、先端技術をどのように具体化させるかということもあるが、例えば、大会を活用しながら世界に先駆けて車の自動運転を選手の送迎などに利用するなどして愛知・名古屋らしさを出していくことは産業界にとっても大事だと思う。次世代に愛知や名古屋はすごいところだと発信し、投資や人などが集まってくるきっかけとなる大会にしなければいけないと思う。
 - ・当地はものづくりはあるが情報産業やITが圧倒的に弱いので、スポーツをひとつのきっかけとしてつなげながら、魅力的な産業やいろいろなものが集まっていくように持って行くようにすべきだと思う。
 - ・短期目標と中期目標、大会前と大会中と大会後についての指摘があったが、時間軸をきちんと持つておく必要があると思う。例えば、アジアの観光に関することについては、来年に実現していないとまずいものもある。すぐにでもやるべきもの、時間をかけてじっくりやるべきものを峻別してビジョンを描く必要があると思う。
- 事務局
- ・時間軸の話については、次回の最終案の段階で、各項目について文書化する中で明らかにしていきたい。
 - ・先端産業については、東京オリンピックに向けて企業の方が頑張っているところだと思うが、その技術が小慣れた頃にアジア競技大会になると思うので、東京オリンピックで活用されたもの、間に合わなかった取組などを分析しながら、盛り込んでいきたい。

- 昇 座 長
- ・2025年は団塊の世代が全員75歳以上の後期高齢者になる年であり、2026年は超高齢社会で迎えるアジア競技大会になり、超高齢社会の観客に対応できるスタジアムや交通機関などが必要になる。中国、韓国、シンガポールなどは日本よりすごい超高齢社会になることが予測されており、日本で超高齢社会の街づくりを行えば、自ずとアジアの国が見習おうということになるのではないかと。
 - ・未来を考えるとときにはバックキャストという方法で、30年先、50年先の未来にどんな社会になっているかを先に予測して、それから戻って2026年はどうなっているかを見返してみるとよい。財政政策などいろいろあるが、それを忘れて将来を一旦考えてみるべきである。AIなどの問題はバックキャストの方が結果的に当たる確率は高いと思う。車についても2040年には電気自動車が主流になっていると考えられ、そこから逆算して自動車産業はどう変えるべきかを未来を起点に考えていくという動きがある。このビジョンでは2030年の愛知県のあるべき社会を設定し、それを実現するための実験の場が2026年のアジア競技大会というイメージを示せるとよいと思う。未来の暮らしのあり方や交通のあり方をアジア競技大会を通じてアジアのみなさんに示していくことは、日本の新しい産業のあり方を示すことにもつながっていくと思う。
- 大竹代理
- ・視点も柱もその通りだと思うが、主な取組についてはすべてを並列にするのではなく重点、これをやっていくということを強く示した方がわかりやすくなると思う。
 - ・アジア競技大会を通じてどのように企業参加や企業協力を促進するのかを考えているが、大会前、大会中、大会後を通じて当地の企業に関心を持ってもらう、いい街になった、産業が活性化したと思ってもらえるようにすべきなので、表現として「企業参加の促進」「企業協力の推進」といった言葉を入れるとよいと思う。来年のラグビーワールドカップやアジア競技大会などについて、商工会議所から会員企業に言うことはあるが、会員企業から話が出ることはあまりない。知事も力を入れているプロジェクトなので、2026年に向かって取り組んでいる、頑張るということを、いろいろな場面で発信していくことが大事だと思う。
 - ・柱3「アジアにおける愛知の産業の存在感を高める」や主な取組の「スポーツとの連携による産業の新たな展開」などは、表現としてはそうだと思うが、具体的にはどうか、企業はどう受け止めるのかが若干引っかかる。この記載は、具体的にどうなのかがわかりづらく、各企業はどう受け止めればよいかと思う。もう少し具体的にこうしていこうという、呼びかけるようなものがあるとよいと思う。当地はものづくりで日本経済を牽引しているがこれからはAIや情報化でやっていかなければいけないという部分もあり、一方で交通ではメッカであり様々な交通機関を体験できる、リニアが体験できる、鉄道だけではなく車や航空機なども体験できる素晴らしい地域は愛知しかないのも、いろいろな技術のショーケースとなるエリアということを表現していくことが大事だと思

う。

- ・愛知県ならではのおもてなしを考えた時に、花、お茶は他県にない強みだと思うので、アジアの方に当地のお茶、抹茶などを提供するの面白と思うので、検討して欲しい。
- ・盛り上げという部分では、スポーツに対して若い世代が関心を持って見る、触れる、感じるということが重要であるので、若い世代や女性にどう打ち込めるかということが大事な視点であり、ターゲットとして学校や教育機関での盛り上げを図るべきだと思う。

事務局

- ・愛知県の花業界は、現在はオリンピックで花を使ってもらうための働きかけをしている。オリンピックの表彰の際には昔はビクトリーブーケという花を贈ることが一般的だったが、最近は変わってきて物を渡すようになってきた。リオのオリンピックでは置物、ジャカルタのアジア競技大会ではマスコットのぬいぐるみを渡していた。2026年は地元開催なので贈る物はコントロールできると思うので、大会の各場面で花を打ち出せるようなことをしていきたいと思う。

松下委員

- ・先日のジャカルタでのアジア競技大会では、卓球は残念ながらトップクラスの選手が出場せず、チェコオープンという国際大会に出場した。チェコオープンの方がランキングのポイントが高く、ランキングが高いとオリンピックでよいシードを得られる、アジア競技大会はチェコオープンよりポイントが少ないので、協会はトップ選手をチェコオープンに送り込み、アジア競技大会には6番手、7番手……を派遣した。2026年のアジア競技大会にはどの種目でもトップの選手が出てもらえるようにして、アジアのナンバーワンを決めるような大会にすれば、観る側も楽しめる。競技によってはオリンピックが世界ナンバーワンを決める大会になっていないものがある。サッカーでは23歳以下でオーバーエイジは3人出られるようになっている、テニスやゴルフもそうだが、プロとして自立している競技ほどオリンピックに対して興味がない、オリンピックに行くプロとしての自立が薄れてしまう側面もあるかと思う。卓球もプロが進むとオリンピックへの興味も薄れてしまう可能性もあるが、2026年のアジア競技大会では、いろいろな競技や選手にも協力してもらい、アジアナンバーワンを決める大会にして欲しい。そうした試合を見ることで若い選手や子どもが感動や感激ができると思う。
- ・現在のスポーツ産業の市場規模が5.5兆円から6兆円と言われているが、これを国の政策により2025年までに15兆円にするという方針が打ち出されている。しかし、日本はスポーツをマネタライズできないという状況にあり、一方アメリカはマネタライズが上手く、人口の違いもあるが、50兆円規模にまでスポーツ産業が発展している。1990年代は日本のプロ野球とメジャーリーグは1,600億円から1,700億円と同じ程度の規模だったが、25年くらい経ちプロ野球はほとんど変わらない中で、メジャーリーグは1兆円を超えてしまっている。スポーツとお金を結びつけるのはよくないという人もいるが、スポーツは

自立していかなければいけない。スポーツは寄附などで成り立っているという状況だが、プロ競技ではスポンサーからの収益で成り立っているということもあるので、アジア競技大会を活用して、愛知県という地域がスポーツで自立できる、寄附を受けなくてもスポーツをやっていけるというロールモデルをつくり、それを全国に波及できると、スポーツ界としてはうれしいことである。

- ・国際交流という部分は積極的にやっていく必要があるが、2026年頃には日本の世界での全体的なプレゼンスは下がっていったのではないかとという危機感がある。東南アジアに行くと、整っている訳ではないが元気な国もあり、根拠はないが、10年後には日本は追い越されるのではないかとという勢いを感じている。何とか日本のプレゼンスを高められるようなものを作って行って欲しい。今後の日本を背負うのは若者、子どもなので、この年代の人が国際感覚を身に着けたり交流したりすることを積極的に行い、愛知県のプレゼンスをアジアに示せるようなレガシーを残していければいいと思う。

事務局

- ・一流の選手がアジア競技大会に出てくれないという問題はある。ジャカルタ大会では、野球など、日本のプロ選手が出場しなかった競技でも、韓国はプロリーグを中断して一流の選手が出場したということもあった。国によってもアジア競技大会の位置付けは違うと思うので、各競技団体に働きかける、各国の競技団体にもオリンピック委員会を通じて、いい選手に出場してもらおうような働きかけをしていきたいと思う。
- ・スポーツのマネタライズの話については、大会を運営するにあたって資金面の確保はしていかなければならないので、レガシーの取組の中でもマネタライズできる仕組みづくり、スポーツが成長産業化できるような仕組みも考えながら進めていきたい。

昇座長

- ・アジア競技大会のバドミントンは事実上の世界一決定戦だったが、それはそれぞれの競技団体が決めることなのだろうか。

來田委員

- ・私もスポーツをずっとやってきたので絶対一番を目指したいが、すべての試合で勝つことができるのはたった一人であり、確率論的には一番になれる可能性は極めて低いので、これを達成目標にするのは馬鹿げている。「一流」の幅を広げて考えるべきであり、豊橋からTリーグのチェアマンが出ていることのように、スポーツをマネジメントする力を備えた人が愛知県から出ているなど、「一流」をたくさんの方の指標で語れるような出し方をしていくべきだと思う。

事務局

- ・欠席している吉田委員から事前にいただいている意見を紹介する。柱1の「スポーツで愛知をブランディングする」について、近年各自治体でもスポーツをキーワードにした取組が多くあるが、その中である程度競技を絞り込んで重点的に強化してはどうか。静岡県が「サッカー王国」として名を馳せたように、「愛知といえば〇〇」「〇〇といえば愛知」というようなスポーツをつくるとよいと思う。メジャースポーツは既に全国各地で取り上げられているので難しいと思うが、アジア競技大会で活躍が期待される愛知で盛んな種目、

例えばレスリングや柔道、アジア競技大会から離れるがフィギアスケートなどを取り上げるのはどうか。

- ・柱4の「アジアと愛知の次世代を育む」について、10月に長野県天龍村の小中学生が至学館大学レスリング部を訪問する。小中学生全校で10数名の学校だが、生徒のアイデアでオリンピックに地元の特産である檜を使った手作りハンガーを届ける「ハンガープロジェクト」を展開している。当初は東京オリンピックの選手村で使用してもらおうとしたが、本数の関係で見送られたようだ。本学でも何か協力できないかと相談にのる中で、小中学生に大学見学をしてもらい、レスリング部の選手にハンガーを届けてもらうこととなった。大規模な取組ではなく、最終的にどのような活動になるかは未定だが、スポーツを通じた地方のPRや、その中から交流が生まれることに意義を感じる。こうした、県下の各自治体や各機関での活動も期待できるとよいと思う。

3 その他

- ・ビジョンの策定に係る今後の予定等について事務局が説明